

週休日の過ごし方は



(『勝』彦だから...)

WINDIANA JONES

～古代エジプト神の角～

太陽神アモン
(羊の頭)



アモン (Ammon)

+

石 (-ite)

||

ammonite



いわき市アンモナイトセンター

①いわき市アンモナイトセンター

アンモナイト2種、北海道以外で初確認 いわき・広野の地層で

岡本進 2025年5月16日 10時45分



福島県いわき市と広野町に広がる地層から見つかった2種類のアンモナイトが、国内では北海道以外で初めて確認される貴重な化石だったことがわかった。県立博物館（会津若松市）などの研究グループが日本古生物学会の国際学術誌に論文を発表した。一部の標本は一般人が見つけた化石だった。

見つかったのは、恐竜が生きていた中生代白亜紀の後期などにあたる約9140万～約8800万年前の地層。地球上から姿を消したアンモナイトは中生代を代表する海の生物で、1万超



双葉層群足沢層 (8900万年前 中生代白亜紀)





11

10

9

109

50

メンブソシア

アンモナイトの破片

メンブソシア

メンブソシア

サメの歯

サメの歯

サメの歯

メンブソシア

メンブソシア

メンブソシア

メンブソシア

メンブソシア

メンブソシア

サメの歯

サメの歯

メンブソシア

メンブソシア

メンブソシア

50

メンブソシア

メンブソシア

36

メンブソシア

50

メンブソシア











『イノセラムス』 (示準化石)



『ノジュール』



参考：三笠市立博物館「炭酸塩ノジュールの作り方」

方解石



完成!

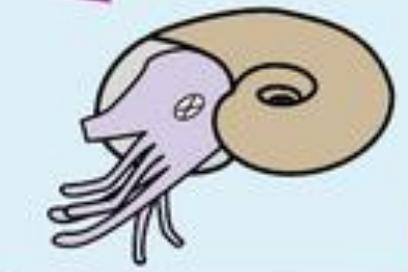
長い年月の間に炭酸カルシウムは方解石という鉱物に変化し、よりノジュールを硬くする。

細菌が分解を続けている間、炭酸カルシウムの沈殿が続き、アンモナイトを中心に、炭酸カルシウムの層が厚くなってゆき、ノジュールが成長を続ける。

アルカリ性の環境では、重炭酸イオンと海水中に溶解しているカルシウムイオンが結合しやすく、この反応により、炭酸カルシウムがアンモナイト周囲に沈殿する。



死亡

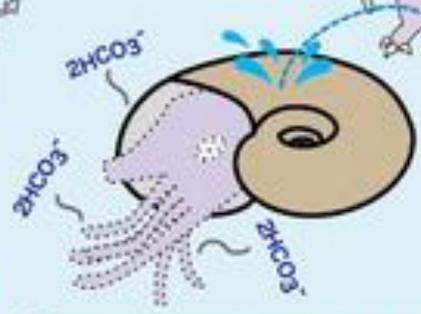


海底にアンモナイトの死体が沈み、泥で覆われる



細菌 (イメージ)

腐敗



細菌が肉を分解 (=腐敗) する。分解した時に重炭酸イオンが生成され、同時に細菌の排泄物 (おしっこ) により、アンモナイト周囲がアルカリ性環境になる。



食べたら出ちゃうよね

※酸素の嫌いな「嫌気性細菌」の働きが重要となっています。

炭酸カルシウム沈殿



成長

《北海道》
ノジュールが柔らかい
⇒割れる

《福島》
とても硬い!
⇒時間と労力の無駄...







《収獲》

- ・ イノセラムスの化石片（多数）
多分0…
- ・ アンモナイト
多分0…
- ・ サメの歯
多分0…
- ・ 自傷打撲 + 血豆
- ・ 筋肉痛 + 腰痛



フタバスズキリュウ
産出地 →

フタバスズキリュウ産出地 所在地 いわき市大久町大久字板木沢

当時は、昭和43年10月、当時県立平工業高等学校2年生だった鈴木匡氏がフタバスズキリュウの化石を発見した場所です。

同年県立科学博物館の小倉副主、長谷川善和両博士の手により第1次発掘調査が行われ、背椎骨、骨盤、肋骨、後肢骨などが採集されました。

第2次発掘調査は、昭和45年10月から行われ、残る背椎骨、左右前肢骨、胸骨、梁骨などが採集されました。これらの化石は、中生代白垩紀後期（今から約8,500万年前）の双葉山層（入間沢部層）から発見されたもので、北太平洋沿岸地域で発見された背椎骨層では最古にして唯一のほぼ完全な全身骨格です。

フタバスズキリュウの学名は、フタバサウルス・スズキイ（*Futabasaurus suzukii*）といいます。2006年に新属新種として記載され、国内外で注目を集めました。この発見によって、「恐竜など中生代的大型爬虫類化石は日本列島からは産出しない」とされていた当時の定説が覆され、その後の恐竜等の発見・研究が飛躍的に進むきっかけとなったのです。

発見された化石は県立科学博物館に保管され、その骨格復元模型は国立科学博物館のほか、いわき市石蔵・地質館にも展示されています。



白垩紀のいわき（生骨復元図）

いわき市教育委員会

②フタバスズキリュウ産出地

フタバスズキリュウ産出地

所在地 いわき市大久町大久字板木沢

当地は、昭和43年10月、当時県立平工業高等学校2年生だった鈴木直氏がフタバスズキリュウの化石を発見した場所です。

同年国立科学博物館の小畠郁生、長谷川善和両博士の手により第1次発掘調査が行われ、脊椎骨、骨盤、肋骨、後肢骨などが採集されました。

第2次発掘調査は、昭和45年10月から行われ、残る脊椎骨、左右前肢骨、胸骨、尾骨などが採集されました。

これらの化石は、中生代白亜紀後期（今から約8,500万年前）の双葉層群玉山層（入間沢部層）から発見されたもので、北太平洋沿岸地域で発見された首長竜類では最古にして唯一のほぼ完全な全身骨格です。

フタバスズキリュウの学名は、フタバサウルス・スズキイ (*Futabasaurus suzukii*) といいます。2006年に新属新種として記載され、国内外で注目を集めました。この発見によって、「恐竜など中生代の大型爬虫類化石は日本列島からは産出しない」とされていた当時の定説が覆され、その後の恐竜等の発見・研究が飛躍的に進むきっかけとなったのです。

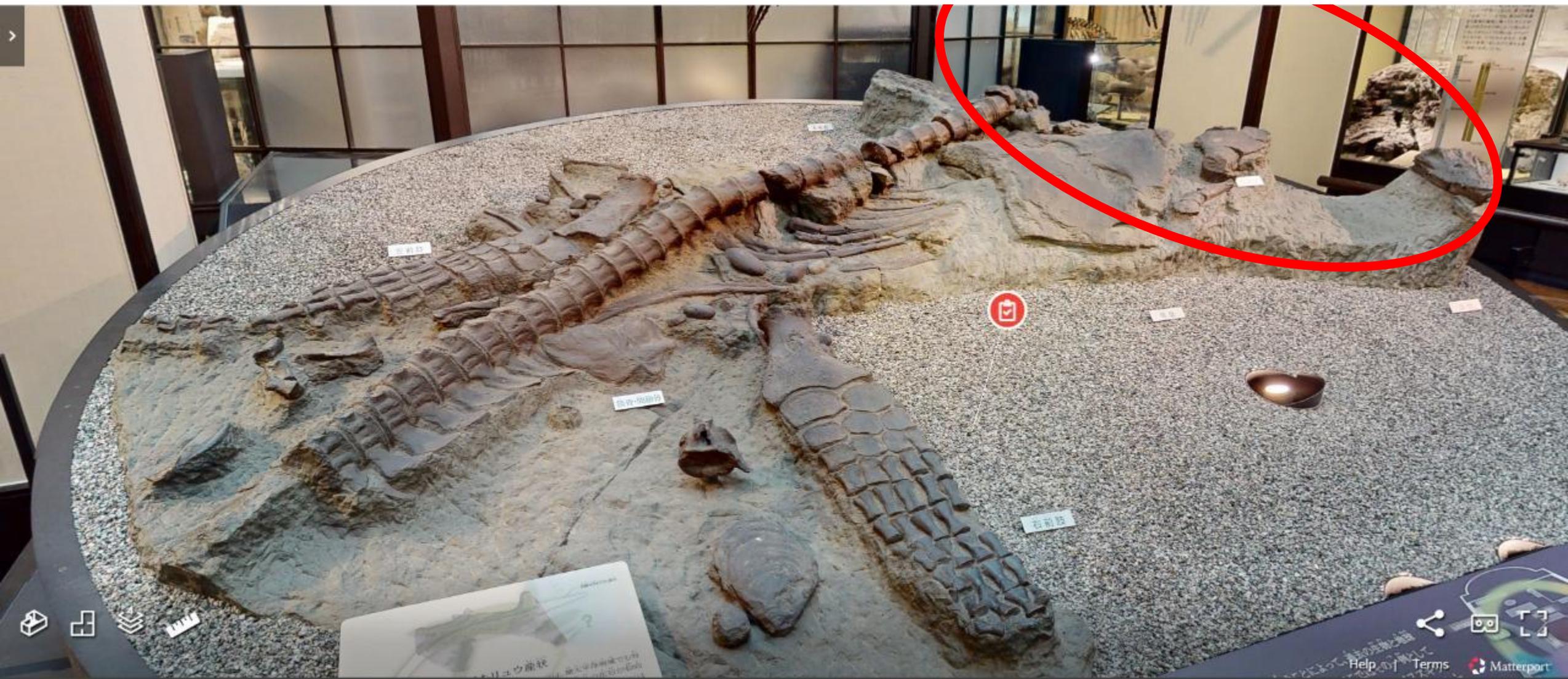
発掘された実物は現在国立科学博物館に保管され、その骨格復元模型は国立科学博物館のほか、いわき市石炭・化石館ほるるにも展示されています。



白亜紀のいわき(生態復元図)

いわき市教育委員会

大久川の流れによって削り取られてしまった…













化石



阿武隈高地

1億年前の変成岩

6000万年前の花崗岩

「紀山石」





③南沢化石産出地

化石のまち 「恐竜の王国」 広野町
桜沢化石群生地 入口

これより右へ 600m →



④ 桜沢化石群生地・恐竜発見地

広野町・広野町観光協会 TEL 0240-27-4163

恐竜発見地



⑤ 弁天岬



砂岩泥岩互層（タービダイト）







A red curtain with gold fringe and tassels frames a white sign with a scalloped border. The sign contains the text "To be continued..." in a bold, black, sans-serif font.

**To be
continued...**